

加害者を許すな！

公害対策会議水俣集会の決意



悲惨さに哀れ尽きず

人生を台なしにされた事も知らず
無心に遊ぶ胎児性水俣病の子供ら

ろれつの回らぬ口
で岩蔵さん訴える
両手の指はちぎれにくっつい

たにわとりの足を。
 恐る恐る、私はふれて見た。冷
 たかった。これは生きている手では
 ないな……私は思った。

久美子さんは、結婚適令期の輝く
 ばかりの青春だというのに、ただだ
 うつろなまなざしのまま、七つか
 八つの女の子よりも細くいたいた

うことは、思いも寄らぬことだつたに違いない。

ところが、もはや死ぬまで何ひとつ自分の手ではやれなくなった身を、年老いた奥さんにつきそわれながら、水俣のリハビリ・センターの四階にあるベッドに、横たえることになってしまったのである。

智子ちゃんは、自分のすぐ側で

それつゝのまわらぬ口を懸命に動かしながら、船場さんは見舞つた私たちに向かい、「それでも病院にはいひつゝところは、ソエをつけばまだ歩けたし、日記をつけるためペンもとれどつたのですが。その手がごげんなつてしまつたが。私が何はしたげん、ごげんもひどかめにあわんならんとでっしゅうか。いっぺんしかもらえん一生が台なしになつてしまつたが」と、

無心に遊んでいる四つの子の体より、はるかにはるかに小さかつた。

四六時中流れつづけるよだれをリハビリ・セクターの廊下になき散らしては巧みに車椅子をあやつりながら遊んでいたが、調査団がおとずれるときとんとした視線を投げた子や、だれに向かつてでもなくただものようにほえつづけている子らも見た。

怒りを知らぬ無心
な子らこそ哀れ

この十二日から十三日にかけて、全国公害対策連絡会議の手で行なわれた「水俣病実態調査活動」に参加した私は、船場さんのほかに、も幾人かの水俣病患者に接することができた。たとえば――

健康な人間として成長してきた娘だったなら、きつとゆきすりのなかで、若者たちをふり返らせずにはいなかったに違いないと思わせた。ほれど、秀麗な美貌をめぐまれた松永と

思わぬ不幸にのたうちまわって苦しむＣＯ中毒患者を仲間にもつ自分だけに、それらの一つ一つが思いつまされてならなかったが、一度しかないのちの誕生のときからもう脱け出ることのできない、胎児性水俣病患者という宿命（射能）の各県をはじめ、全国からでに公害の恐怖に直面している新潟、富山、群馬、千葉、長崎（放射能）の各県をはじめ、全国から

詩二編

港務指導部
柿坂敏

言葉

言葉
それは眞実を伝えるすべて
ある
善惡を示す、すべてである。
言葉が背信の言ひ訳だった
り
権謀の毒舌であるなら
一切を許さない
無表情な白色の体制。
氣狂いじみた道化師共が
どう猛なる權力のハケを使
つて
塗うつぶして行く白色の恐
怖。

尊い水俣の闘い

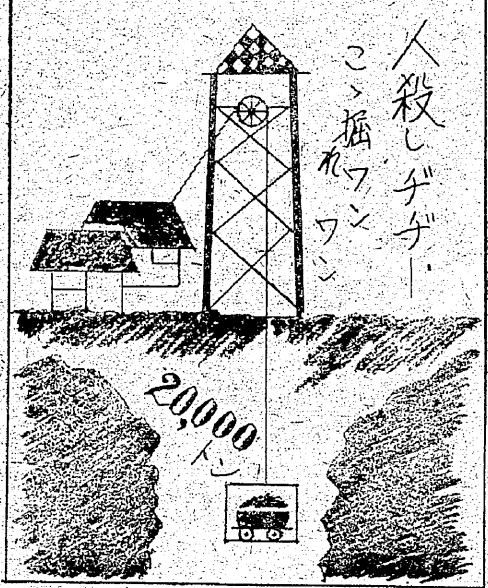
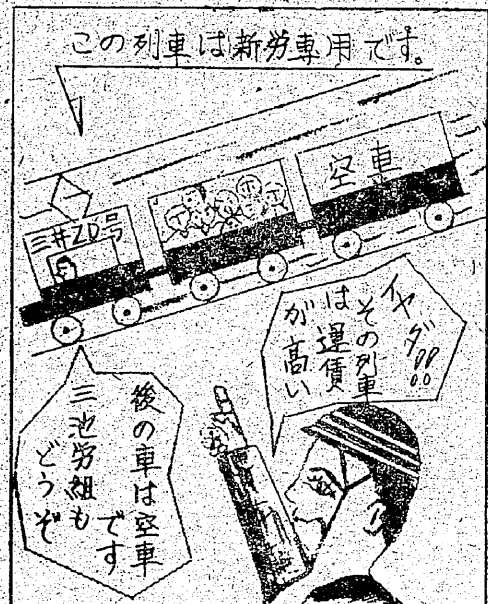
私たちは十三日調査団を解散するに當つて集會を開き、「これからどう闘うべきか？」を討論した。

公害に関する限り、加害者が被害者だ

これからの決意

この日私たちは決意をこめて、
「一日も早く恐るべき公害を根絶
するために闘う」ことを誓ひ水俣
をあとにしたが、この誓ひは自分
がこれからＣＯの闘争にのぞむよ
うの誓ひともなっていたことは
述べるまでもなからう。

(K生記)



（K）
生
記